

平成27年度 愛媛大学大学院連合農学研究科
学位記授与式 式辞

この早春の佳き日の学位記授与式に当たり、愛媛大学大学院連合農学研究科を代表し、ご挨拶を申し上げます。

本日、学位を取得された課程博士18名、論文博士4名の合計22名の皆さんには、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。この中には、6名の海外からの留学生が含まれています。慣れない日本での様々な課題を乗り越えての成果であり、その努力を称えます。これまで研究生活を支えてこられたご家族を始めご関係の皆様方にも、心よりお慶び申し上げます。また、研究指導に当たられた先生方におかれましては、そのご尽力に敬意を表します。

さて、本日取得された博士の学位は、長年に亘る皆さんの努力の賜物であります。言うまでもなく、研究は、命題を定め、深く探求し、学界の評価に耐え得る成果を挙げ、科学と技術の発展を通じて社会に貢献することを目指すものであります。それには、試行錯誤を繰り返し、得られた結果を厳格に考察し、そこから普遍性を見出すことが求められます。学位取得までの日々は、まさに、この一連の過程であり、苦労とともに大きな充実感を体感されたものと思います。ここで得た知識と経験は、これから皆さんが歩まれる専門職の道における新たな課題への取り組みに、必ずや活かされるものと思います。

一方、博士の学位は、研究者としての自立の証でもあります。

すなわち課題を見出し、探求して結果を出すために必要とされる、高度な専門知識や技能が備わっていることを社会に公言することでもあります。また、それと同時に、社会からの付託を受けて行う研究という行為において、自らを律し、責任を全うするという宣言でもあります。昨今、研究活動を巡り様々な倫理的な問題が生じていることは皆さんもご存知のとおりです。これは、研究者個人の問題に止まらず、科学の進展を混乱させ妨げるとともに、社会に大きな損失をもたらし、ひいては科学そのものへの信頼を損ね兼ねない重大な問題です。博士の学位を取得された皆さんには、これからの研究活動においても、自律する研究者としての自覚を持ち続けていただきたいと思います。

今日の学術の進展は目覚ましく、また社会から解決を求められる課題も複雑さを増す一方です。博士の学位を取得された皆さんには、今後も、真摯に研鑽を積み重ね、専門家としての技量・見識をさらに広げて、社会に貢献されることを願っています。皆さんの今後のさらなる発展とご活躍を祈念し、お祝いの言葉といたします。誠におめでとうございます。

平成28年3月15日

香川大学長 長尾 省吾